

KDDI、「スマホ依存」の研究

KDDIはスマートフォン
の使いすぎなどの「スマホ依
存」についての共同研究を始
めた。脳神経科学と人工知能
(AI)を組み合わせてスマ
ホ依存の実態を探る。スマホ
の使いすぎに問題を感じる人
は少なくない。2024年度
にスマホ依存を検知、改善、
予防するスマホアプリを実用
化することを目指す。

KDDI総合研究所(埼玉
県ふじみ野市)、国際電気通

信基礎技術研究所(ATR、
京都府精華町)、スタートア
ップのXNeF(エックスネ
フ、同)と共同研究する。脳
情報やスマホの操作履歴など
をAIで解析し、本人が自覚
することが難しいスマホ依存
の状態を検知する手法の開発
を目指す。

精神疾患との関連性を調
べ、スマホの利用状況から精
神疾患にあるかどうかを類推
する手法や、投薬などではな

く心理的なアプローチでスマ
ホ依存を軽減する手法の研究
も進める。

今後は病院など医療機関と
の協力関係をつくり、研究を
拡大していく方針。

19年12月にKDDIとKDDI
総合研究所が約9万人を
対象に実施したアンケートで

は、約25%の人がスマホの長
時間利用などに問題を感じて
おり、うち約83%がスマホ利
用を改善したいと答えた。